
大学教育学会ニュースレター

No.81 2009.4.16

大学教育学会 (*Liberal and General Education Society of Japan*)

事務局:北海道医療大学内 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757

TEL0133-23-1487(直通)/FAX:0133-23-1487

郵便振替口座:00120-4-178891 大学教育学会

e-mail: ungakkai@hoku-iryo-u.ac.jp URL: <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

「第31回学会大会をお迎えするにあたって」

大学教育学会第31回(2009年)大会
大会実行委員長 上野 淳(首都大学東京大学教育センター長)

平成20年度から実施された大学教育のFDの義務化、平成20年12月に公表された「学士課程答申」による「学士力」論議などを受け、各大学ではさまざまな大学教育改善に向けた取り組みが行われていると思われます。この間のキーワードをざっとあげてみますと、「大学の教育力」「大学の質保証」「学生の主体的な学び」「FDの実質化」「FD評価」「第2世代のFD」「分野別FD」「大学間連携」「地域連携型FD」「学生参加型FD」「教員の学びとしてのFD」「OD・FD・SD」「初年次教育」「TAセミナー」「双方向ワークショップ」「ピアレビュー」「厳格な成績評価」「AP, CP, DPの3つのポリシー策定」等々、大学教育の改善・充実に向けた取り組みを求める内容のものが多く見られております。

これらに照らすと、「教育者としての大学教員」という今大会の総合テーマは非常に時宜にかなったものであると思われます。無論、大学教員の能力は、教育力だけに主眼を置かれるのではなく、専門分野の研究能力に支えられた教育実践にその特徴を有しており、また、その先端的な知を学内だけでなく社会に還元することが求められてもいます。しかしながら、近年の本学会の会員数の増加傾向は、最近の大学教育改善の動向と歩調を合わせたものであるといえ、それを受けて本学会大会のラウンドテーブル数も15題と大幅に増加し、また個人研究発表演題数も84題と昨年から大幅に増えております。本大会の実行委員会としてはうれしい悲鳴ではありますが、そのような熱意に見合うだけの運営ができるかどうか心配ではあります。ともあれ、寺崎昌男会長のご講演、およびテーマに沿った2件のシンポジウム、また会員諸氏の内容の濃いご発表と熱いご議論によって、本学会の使命と責任が果たされることに、会場校として少しでも貢献できれば幸いであると考えます。

首都大学東京の南大沢キャンパスは、多摩丘陵の緑の多い地にあり、新宿から40分ほどの駅前大学でもあります。この新緑のキャンパスで心ゆくまでご議論のいただきたいと願っております。

なお、本学会大会の企画にあたっては理事会をはじめ企画委員会の諸先生方に、また開催・運営にあたっては大会実行委員会をはじめとする関係の諸先生方にご尽力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

大学教育学会 第31回 (2009年) 大会
総合テーマ「教育者としての大学教員」
開催要領

1. 開催日時及び会場

期日 2009年6月6日(土)～7日(日)

会場 首都大学東京南大沢キャンパス 1号館・講堂(東京都八王子市)
(京王相模原線「南大沢駅」下車:徒歩5分)

2. 大会日程

第1日:6月6日(土)

9:00	9:30	12:00	13:00	14:00	14:10	15:30	18:00	19:30
受付	ラウンドテーブル	昼食	総会	学長 挨拶	基調講演	シンポジウムI	懇親会	

第2日:6月7日(日)

8:30	9:00	12:00	13:30	16:00	16:30
受付	自由研究発表	昼食	シンポジウムII	閉会	

▼関連行事

6月5日(金) 16:30～18:00 理事会

6月7日(日) 12:00～13:00 常任理事選出の特別理事会

第1日 6月6日(土)

9:00～ 受付

9:30～12:00 ラウンドテーブル(150分)

テーブルI 「大学体育教員の養成と採用、FD、評価」

会場:1号館 109教室

企画者:小林 勝法(文教大学)、*太田 あや子(武蔵丘短期大学)

報告者:小林 勝法(文教大学)、東海大学(松本 秀夫、吉岡 尚美)

企画概要:第31回学会大会の統一テーマに即して、教養体育を担当している教員の養成と採用、FD、評価について検討する。大学教員の養成の機会としてTA制度があるが、教養体育担当の教員を採用する立場としては、専門体育でのTA経験よりも教養体育での経験を重んじたい。東海大学ではTA制度ではないが、教養体育で研修を積む制度を実施しており、その成果や課題をもとに教員養成について討議したい。そして、新制大学発足後一貫してFDに務めてきた(社)全国大学体育連合の研修制度や助成制度、顕彰制度をもとにFDの成果やあり方について討議したい。最後に、教員評価について東海大学の事例をもとに体育教員の立場から検討したい。

テーブルII 「学生と変える大学教育:FDを楽しむという発想」

会場:1号館 101教室

企画者:清水 亮(三重中京大学)、橋本 勝(岡山大学)

報告者:絹川 正吉(国際基督教大学名誉教授)、三尾 忠男(早稲田大学)、
青野 友太郎(地域科学研究会 高等教育情報センター)

企画概要：2008年度から大学でもFDが義務化された。とはいえ、大学間でFDの取り組みの温度差はかなりあるように思われる。大学全入時代が到来し、中教審は、「学士」の質を維持するために、大学卒業までに学生が最低身につけなければならない能力を「学士力」と定義し、各大学に卒業認定試験の実施など厳格なチェックを求める素案をまとめた。大学のグローバリゼーション化とユニバーサリゼーション化の中、今、日本の大学は、FDの推進を梃子に、教育力を向上させることを求められている。義務化されても全体として進まないFDを推進するには、FDに対する発想の転換が必要ではないだろうか。大学の教育力の向上が不可欠である。このラウンドテーブルでは、教育力向上のために、「学生と変える大学教育」と「FDを楽しむという発想」という2つの新しいコンセプトを提案した『学生と変える大学教育：FDを楽しむという発想』（ナカニシヤ出版 2009年）を肴に、フロアと共に、2つの新たなコンセプトは、日本の大学のFDの追い風になるか、どうすればFDは進むのか具体的に考えてみたい。

テーブルⅢ 「共通教育のマネジメント」

会場：1号館 107 教室

企画者：古畑 徹（金沢大学）、吉永 契一郎（東京農工大学）、吉田 香奈（山口大学）、渡邊 あや（熊本大学）

報告者：黒田 光太郎（名古屋大学）、山成 数明（大阪大学）、吉田 香奈（山口大学）

企画概要：設置基準の大綱化以降、教養教育担当組織の解体により、共通教育の運営については試行錯誤が続いてきた。これまでに、「共通教育機構」の設置、「大学教育センター等」の拡充、「教育コーディネーター制度」など運営上の工夫が行われている。中教審の答申が指摘するように、今後、共通教育が対象とする導入教育・スキル教育・基礎教育・キャリア教育等の重要性が高まる一方、アウトカムに基づいた教育改善、到達目標としてのコンピテンスの明確化という新たな課題も生まれつつある。本企画においては、3大学からの事例報告をもとに、共通教育運営におけるGP(Good Practice)を探って行きたい。

テーブルⅣ 「授業方法としてのワークショップ・シリーズ2～授業カリキュラムの中で、ワークショップを導入する」

会場：1号館 102 教室

企画者：筒井 洋一（京都精華大学）

報告者：筒井 洋一（京都精華大学）、中村 恵子（キャリア・カウンセラー）

企画概要：このテーブルは、昨年（ワークショップとe-learning）から始まり、今後シリーズ化して取り組んでいく予定である。運営方法としては、レクチャーを最低限にして、参加者とワークショップ形式で体験しながら、学びを共有化していきたい。今年のテーマは、半期15週での授業の中で、ワークショップ手法をどのように導入するのかについてである。15週の中で、1)最初の1, 2週を導入部、2)3週以後をメイン、3)最後の1, 2週をエンディングおよび振り返りに分ける。すべてのパートを扱えるかどうかはその時次第であるが、15週での時間配分を、90分間での時間配分と同じと考えて、どのように授業設計するかを考えていきたい。

テーブルⅤ 「FDネットワークの可能性を拓く（仮）」

会場：1号館 201 教室

企画者：夏目 達也（名古屋大学）

報告者：関内隆（東北大学）、中井俊樹（名古屋大学）、青野透（金沢大学）、宮田政徳（徳島大学）

企画概要：複数の大学がネットワークを形成してFD活動を展開する取組が、全国のいくつかの地点で展開されている。すでに、東北、東海、関西、四国では、全国に先がけてネットワークが組織され、FD（一部はSDについても）の実施に関して一定の成果をあげている。これらの組織の現状と課題について昨年度のラウンドテーブルで取り上げた。今年度は、議論の結果をふまえて、新たに石川県や徳島県のネットワーク等を加えて、各地で展開するネットワークの活動状況を報告するとともに、以下の問題について議論する。・ネットワークで展開しているFD活動の具体的内容、・ネットワーク運営上の工

夫、・他地域のネットワークとの連携、・ネットワーク運営に関する問題点とその解決策

テーブルVI 「FDプログラムの開発を支援する～「新任教員FDのための基準枠組」をツールとして」

会場：1号館 103教室

企画者：杉原 真晃（山形大学）、川島 啓二（国立教育政策研究所）、加藤 かおり（新潟大学）

報告者：杉原 真晃（山形大学）、川島 啓二（国立教育政策研究所）、*岡田 佳子（長崎大学）

企画概要：FD義務化を機に、各大学等で自校の教育改善に向けた暗中模索が進められている。しかし、わが国の大学教育の公共性及び大学教育改善の効率性を考えると、今後必要なのは実践事例を大学間で集約・共有化し、より質の高いFDプログラムを協同的に開発することではないだろうか。我々は英国の例をモデルに、国内の先進的なFD事例を集約した「新任教員FDのための基準枠組」を実験的に作成した。本企画ではこの「基準枠組」をFDプログラム開発のツールとして位置づけ、フロアーの方々と共にFDプログラムを開発するワークショップを実施する。このワークを通じ、開発ツールとしての基準枠組の有効性及び各大学の多様性に対応しうるFDプログラム開発支援の可能性について検討したい。なお、ワークショップ形式のため冒頭から参加いただけると幸いである。

テーブルVII 「教員が求める職員像—自律的に活動する大学を目指して—」

会場：1号館 104教室

企画者：今田 晶子（立教大学）、清水 栄子（公立大学協会）、秦 敬治（愛媛大学）、
本郷 優紀子（桜美林大学）、佐々木 一也（立教大学）

報告者：竹中 暉雄（桃山学院大学）、木野 茂（立命館大学）、山内 正平（千葉大学）、
上田 理子（札幌市立大学）、古矢 鉄矢（北里大学）

企画概要：本学会の課題研究「SDの新たな地平—『大学人』能力開発に向けて」は2年目に入る。昨年は私立大学と国立大学の教職協働の実態を職員の立場から事例研究的に紹介した。それらによれば、大学の自律的研究教育活動を保証するのは個々の職員の主体性と運動体としての組織である。そして、教職員の仕事が相補的關係にあるという自覚とその実践が重要であるとの認識に至った。そこで、今回のラウンドテーブルでは、教員の側から見た職員像を扱うことにした。日常的に職員とともに共通の目標を持って作業をしている教員が、職員をどのように見てどのように評価しているか。また、本音の部分で職員にどのような働きを期待しているのか。この点について、国公立の設置形態の違いにも配慮しながら教員に忌憚のない意見を求める。そして、それを職員の側からも受け止めていただき、参加者との意見交換をも通して、両者の総合としての「大学人」概念の確立につなげたい。

テーブルVIII 「TAの業務範囲と研修について」

会場：1号館 105教室

企画者：安岡 高志（立命館大学）

報告者：北野 秋男（日本大学）、野田 文香（立命館大学）、*清水 一彦（筑波大学）

企画概要：TA（Teaching Assistant：教育助手）制度が1960年代に拡大し、米国では大学の教育の質の低下が起こった。この質の低下を補う手段として、大学が全学的に行うTA研修、学部が行うTA研修、学科が行うTA研修、授業担当者が行うTA研修に加えて、教育学部によるTA研修などを実施し、TAが20世紀米国の高等教育界における最大の発明品と言われるようになった。米国のTAの特徴は単独授業を始めとし、採点、成績評価などを行うことができる。一方、日本の現状はTAの業務範囲は限定されており、研修内容には授業スキルに関するものは含まれておらず、さらにTA導入の効果についても定量的な報告は皆無である。中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」2008.12.24ではTA活用の拡大をうたっていることから、日本におけるTAの活動範囲の決定、その活動範囲におけるTA導入の効果を期待できる日本に合ったTA研修のあり方について、研究を行う必要である。TA制度は日本の高等教育を救う極めて可能性の高い施策の一つである。

テーブルIX 「一般教育の知的遺産を活かす（その1）」

会場: 1号館 208 教室

企画者: 志津木 敬 (広島大学)、竹下 賢 (関西大学)、上垣 豊 (龍谷大学)、
武石 宣子 (和泉短期大学)、坂入 明 (東京家政大学)

報告者: 丹生 久吉 (三重大学名誉教授)、*堀田 泉 (近畿大学)

*太田 敬雄 (NPO 国際比較文化研究所)、*早川 優 (作家)

企画概要: 大学全入時代の大学教育には、関連づけが要請されます。その意味では、一般教育の知的遺産を活かすところにあるといっても過言ではないでしょう。総合・統合は、精神の全体性にかかわっているとところから、必要に応じて他から有意義な題材や技法を取ってくるという利点があります。教育者としての大学教員像の形成とも関連性をもっていることは明白です。本ラウンドテーブルでは、メディア・リテラシーも取り上げながら、総合・統合に迫りたいと思います。

テーブルX 「学部、事務局、教員、学生が連携する英語教育改革実施のあり方:

～立命館大学 生命科学部・薬学部 プロジェクト発信型英語プログラムの実践を事例に」

会場: 1号館 209 教室

企画者: 鈴木 佑治(立命館大学)、山中 司(立命館大学)、

立命館大学大学教育開発・支援センター(加藤 稔、関口幸代、近藤悠介、山下正克、玉井弘美)、

*株式会社アイビーインターナショナル(立命館大学外部教育機関)、

*株式会社オーティシー(立命館大学外部教育機関)

報告者: 企画者に同じ

企画概要: 2008 年度に新設された立命館大学生命科学部・薬学部では、理系の学生が将来の生命科学・薬学分野における先端的な国際プロジェクトに参加できる英語力を養成することを目指し、プロジェクト発信型英語プログラムを外国語カリキュラムに一貫させた。学生は自らの興味・関心を追求するプロジェクトを行い、該当科目を大学の専任教員が担当する一方、スキル・ワークショップでは選定した外部教育機関による体系的な英語学習を実施した。当プログラムは、TOEIC-IP スコアの平均約 40 点の上昇と、個々の学生による積極的な英語でのプレゼンテーションやディスカッションの実施に繋がり、単年度において相当の成果を挙げた。本発表では、当プログラムが成功した理由として、学部、事務局、外部教育機関との三つ巴の連携体制に着目し、広く外国語教育改革への議論をラウンドテーブルの形式で実施する。

テーブルXI 「教育改善のための教育情報アーカイブス: オンライン授業公開から

電子ティーチング・ポートフォリオまで」

会場: 1号館 202 教室

企画者: 江本 理恵 (岩手大学)、尾澤 重知 (大分大学)、加藤 由香里 (東京農工大学)

報告者: 江本 理恵 (岩手大学)、尾澤 重知 (大分大学)、加藤 由香里 (東京農工大学)、

堀井 祐介 (金沢大学)、*酒井 陽一 (大同大学)

指定討論者: 栗田 佳代子 (大学評価・学位授与機構)、古賀 暁彦 (産業能率大学)

企画概要: 教育の質を高める手段として ICT (Information Communication Technology) が注目を集め、e ラーニングの整備や情報ポータル構築などが大学ごとに進められている。これらのシステムを効果的に運用して教育改善につなげるには、利用者の拡大と利用をうながす仕組みづくりが必要である。そこで、実際にシステム開発や運用にかかわるFD担当者を中心に、利用者がICTを使って何を実現できるか、また、それを支援するFD活動はどうあるべきかについて、各大学での実践を報告し、ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップの企画者および社会人向け e ラーニング運用者を交えて、ICTによる教育改善の可能性について議論する。

テーブルXII 「学生の多様化に対応する初年次教育システムの構築と実践

—全ての学生に教育の質を保証するために—

会場: 1号館 203 教室

企画者: 大手前大学 (奥田 雅信、畑 耕治郎 (株式会社デジタル・エデュケーション・サポート))、

*吉川 聡 (株式会社ワークアカデミー) 、*川崎 弘也 (株式会社ラーニングバリュー) 、
* 原田 敬文 (日本体験学習研究センター株式会社)

報告者: 大手前大学 (奥田 雅信、本田 直也、石毛 弓、近藤 伸彦、毛利 美穂、中島 彰子)

企画概要: 多様な学生全てに自己教育を可能とする教育体制を構築し、教育の質を大学全体の責任で保証することが緊要の課題である。教育の質には、明確な学習目標設定と公正な評価、教員の資質の向上、学士課程全体に及ぶ体制、地域・社会・企業等との連携・協働など、様々なものが含まれる。

本テーブルではまず、初年次教育において、一律の学習内容を課す従来型プログラムからの質的転換を実現し、成果も得ている大手前大学の実践事例を報告する。大手前大学では必修4科目全体において、完全習得を目指したターム制や、到達目標別コース編成を実行し、また学習成果の可視化を図る携帯端末対応自己学習管理システムを導入するなど、多くの新しい試みに取り組んでいる。報告に次いで、それぞれの大学の状況に応じて、教育の質保証という問題をいかに解決していくかを議論する。

テーブルⅢ 「学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅰー大学職員の教育支援のあり方ー」

会場: 1号館 204 教室

企画者: 高橋 真義 (桜美林大学)

報告者: 米田 敬子 (桜美林大学) 、山口大学 (小田 雅記) 、
*河野 香織 (清泉女子大学) 、*近藤 浩 (帝塚山大学)

企画概要: 学生は大学の主役であり資産です。学生の目を輝かせる大学教育の可能性の実践事例として、自己表現・評価トレーニングを導入して大学職員が教育支援をプロデュースした事例を発表します。これらの実践から得られたデータより、コミュニケーション力養成としての自己表現・評価トレーニングの尺度を検証いたします。最後に学生を交えたディスカッションをおこないます。1. 実践事例・研究報告①清泉女子大学 ②帝塚山大学 ③山口大学 2. 自己表現・評価トレーニングの尺度の検証 3. 学生を交えた ディスカッション

テーブルⅣ 「ライティング教育を基点にした学習支援と FD 活動の展開」

会場: 1号館 205 教室

企画者: 井下 千以子 (桜美林大学) 、井下 理 (慶應義塾大学)

報告者: 近田 政博 (名古屋大学) 、長澤 多代 (三重大学) 、土持 法一 (弘前大学)

司会: 井下 千以子 (桜美林大学) 、田部井 潤 (東京国際大学)

企画概要: これまでのライティング教育では初年次におけるレポートの書き方など学習技術が重視されてきたが、教育内容を深めていくには学士課程4年間に渡り、学生の思考の発展やアイデンティティの模索にもつながる幅広い指導が求められる。そこで、教員が相互に学びあうFD活動が必須となる。ここでは、①名古屋大学における学生論文コンテストと論文書き方講座の取り組み、②ライティング教育における大学図書館の役割と教育活動支援に向けた取り組み、③北米における Teaching & Learning Center の活動とラーニング・ポートフォリオの活用についてご報告いただき、ライティング教育を基点とした学習支援とFD・SD活動について議論を深めていきたい。

テーブルⅤ 「今、なぜリベラルアーツ-21世紀型リベラルアーツの再構築-」

会場: 1号館 206 教室

企画者: 坂井 昭宏 (桜美林大学) 、後藤 邦夫 (学術研究ネット) 、
深野 政之 (大学コンソーシアム京都) 、須長 一幸 (新潟大学)

報告者: 企画者と同じ

企画概要: リベラルアーツ (アカデミックな学習基盤確立のための教育) を学士課程教育の一つの理念型と見て、その教育目的、教育課程 (旧来の意味での教養教育と専門教育とを含む) 、教育内容 (学部段階での必要最少要件) 、教育方法、教育組織と研究組織の関係等について、大学の使命と今世紀のリアリティを踏まえて継続的に研究する。(1) 「学士力育成とアウトカム評価ー学士課程教育の構築に向けて」を読んで (2) 「教養カリキュラムの改革動向」 (3) 「科学技術開発の現状と研究者養成シ

STEMの課題」(4)「昨今の高等教育政策と大学の使命-課題研究の趣旨説明に代えて」

昼食 12:00~12:50 (シンポジウムI 打ち合わせ)

総会 13:00~13:50 議長: 寺崎 昌男 学会長 会場: 講堂

基調講演 14:00~15:20

会場: 講堂

挨拶: 原島 文雄 首都大学東京学長(予定)

司会: 永井 正洋(首都大学東京)

演題: 「大学教員と初・中等教員~求められる能力の異同(仮題)」

講師: 寺崎 昌男 大学教育学会長

シンポジウムI 15:30~18:00 「大学教員のパフォーマンス評価」

会場: 講堂

趣旨: 本シンポジウムでは、大学を取り巻く環境が目まぐるしく変化し、同時に大学も内部変革を経て、そのレーゾンデートルの今日的理解に直面している中で、大学教授の「専門家としてふさわしい活動をしているか」に注目し、学識の成果の総合的評価として、パフォーマンス評価について検討する。

シンポジスト: 山田 雅夫(岡山大学)、奥村 次徳(首都大学東京)、安岡 高志(立命館大学)、小笠原 正明(筑波大学)

コーディネーター: 田中 義郎(桜美林大学・本大会企画委員)

懇親会 18:10~19:30 会場: 生協食堂または国際交流会館

第2日 6月7日(日)

受付 8:30~

自由研究発表 9:00~12:00 (180分)

自由研究I 大学教授職

司会: 山野井 敦徳(くらしき作陽大学)・福留 東土(広島大学)

会場: 1号館 102教室

9:00~9:20 若手研究者養成制度の現状と課題ーPD制度を中心にー

北野 秋男(日本大学)

9:20~9:40 SoTLの実践における学問分野の影響ー米国CASTLプログラムの事例研究

吉良 直(日本教育大学院大学)

9:40~10:00 UCバークレーの大学教員養成プログラム

宇田川 拓雄(北海道教育大学)

10:00~10:10 総合討論

10:10~10:20 休憩

10:20~10:40 FDに関わる若手研究者の業務実態と課題ー若手FD研究者ネットワーク(JFDN Jr.)

運営委員に対するアンケート調査を手がかりにー

石川 裕之(京都大学)、村上 正行(京都外国語大学)、及川 恵(京都大学)

杉原 真晃(山形大学)、田口 真奈(京都大学)

10:40~11:00 教員業績評価システムの開発と運用 ~ 3ヶ年の試行と課題 ~

岡部 昌樹(金沢星稜大学)

11:00~11:20 研究能力向上の方策に関する自己モニターを活性化するためのポートフォリオ活用

ー理論・対象・方法に関する専門性の意識づけを目指してー

佐々木 嘉則(お茶の水女子大学)、高橋 薫(お茶の水女子大学)

- 11:20~11:40 ティーチング・ポートフォリオとアカデミック・ポートフォリオ
栗田 佳代子(大学評価・学位授与機構)
- 11:40~11:55 総合討論

自由研究Ⅱ 学生とキャリア

司会: 山田 礼子(同志社大学)・葛城 浩一(香川大学)

会場: 1号館 103教室

- 9:00~9:20 米国「優れた体験学習に関する8つの原則」: 日本での適用可能性を視野に
和栗 百恵(大阪大学)
- 9:20~9:40 アメリカの高等教育におけるサービス・ラーニングの理論的基盤と実践に関する研究
ライトウ山崎晴世(高崎商科大学)
- 9:40~10:00 大学教育を通して成長を実感する High Performer としての学生タイプの特徴
溝上 慎一(京都大学)
- 10:00~10:10 総合討論
- 10:10~10:20 休憩
- 10:20~10:40 初等・中等教育段階の活動経験が大学生の職業進路成熟に与える影響
望月 由起(横浜国立大学)
- 10:40~11:00 大学生の労働法知識と意識・行動
林 祐司(首都大学東京)、居神 浩(神戸国際大学)、*長尾博暢(追手門学院大学)
- 11:00~11:20 初期キャリア教育と融合した初年次リテラシー教育
手嶋 英貴(大阪女学院大学)
- 11:20~11:40 教養教育としてのキャリアデザイン力育成のあり方-自ら考え続ける力とその教育実践
の試み
飯吉 弘子(大阪市立大学)
- 11:40~11:55 総合討論

自由研究Ⅲ 学士課程教育

司会: 舘 昭(桜美林大学)・前田 早苗(千葉大学)

会場: 1号館 104教室

- 9:00~9:20 企業が大卒者に求める能力とその評価方法(仮題)
岡部悟志(Benesse教育研究開発センター)、樋口健(ベネッセ教育研究開発センター)
- 9:20~9:40 (仮)大学生の学習成果~学習・生活経験の違いに注目して~
十河直幸(ベネッセ教育研究開発センター)、樋口健(ベネッセ教育研究開発センター)
- 9:40~10:00 「学士課程教育」を展望する -全国学部長調査の結果から-
谷村 英洋(東京大学)、金谷 悠子(株式会社進研アド)、戸村 理(東京大学)、
*山本 以和子(株式会社進研アド)、*福井 文威(東京大学)、
*両角 亜希子(東京大学)
- 10:00~10:10 総合討論
- 10:10~10:20 休憩
- 10:20~10:40 ハーバード・カレッジのカリキュラム改革: 本格実施に向けて
深野 政之(大学コンソーシアム京都)
- 10:40~11:00 カリキュラム・マップ開発による教育課程体系化の取り組み
佐藤 浩章(愛媛大学)
- 11:00~11:20 アメリカにおけるラーニングアウトカム評価の現状と課題
吉田 武大(関西国際大学)
- 11:20~11:40 評価機関の取り組みの在り方について -EUA調査結果から-

安岡 高志 (立命館大学)、井上 史子 (立命館大学)、
立命館大学 (金剛 理恵、宮浦 崇、林 徳治)

11:40～11:55 総合討論

自由研究Ⅳ 高大連携・接続

司会: 坂井 昭宏 (桜美林大学)・小山 悦司 (倉敷芸術科学大学)

会場: 1号館 105教室

- 9:00～9:20 教育戦略可視型シラバス作成支援システムの構築
～一般社会への効果的な大学情報発信を目指して
齋藤 聖子 (大学評価・学位授与機構)
- 9:20～9:40 高大連携の促進要因と阻害要因ー日米比較の視点からー
山岸 みどり (北海道大学)
- 9:40～10:00 高校大学を通じた科目履修の実態と課題
ー総合大学における自然科学系科目・社会科学系科目の履修実態調査からー
大久保 敦 (大阪市立大学)
- 10:00～10:10 総合討論
- 10:10～10:20 休憩
- 10:20～10:40 高大連携教育における授業実践のあり方(1)
ー教科を超えた授業「自己表現力セミナー」におけるコーディネート教員の役割ー
中村 博幸 (京都文教大学)、筒井 洋一 (京都精華大学)
*吉田 功 (京都市立紫野高等学校)
- 10:40～11:00 高大連携教育における授業実践のあり方(2)科目を越えた高校教員集団の実践
ー担当教員と受講生徒の変化を中心にしてー
筒井 洋一 (京都精華大学)、中村 博幸 (京都文教大学)
*吉田 功 (京都市立紫野高校)
- 11:00～11:20 生徒から学生への内面変化をめざした初年次英語授業
ー高校授業への提言と大学入試見直しへの足がかりとしてー
金岡 正夫 (鹿児島大学)
- 11:20～11:40 ブリッジ・カレッジ “学問の世界へようこそ” ～入学前教育の企画・実施・評価・FD
井下 千以子 (桜美林大学)、松久保 暁子 (桜美林大学)
- 11:40～11:55 総合討論

自由研究Ⅴ 教育方法

司会: 竹前 文夫 (目白大学)・橋本 勝 (岡山大学)

会場: 1号館 109教室

- 9:00～9:20 米国における学生リーダーシップ開発の動向ー『社会変革モデル』を中心としてー
泉谷 道子 (愛媛大学)
- 9:20～9:40 学生リーダー養成プログラムの現状と課題
ー愛媛大学リーダーズ・スクール (ELS) を事例としてー
岸岡 洋介 (愛媛大学)
- 9:40～10:00 専門職養成課程における哲学・倫理学の課題
堀井 泰明 (天使大学)
- 10:00～10:10 総合討論
- 10:10～10:20 休憩
- 10:20～10:40 考える力を養うことの実際ー音楽学部における一教養科目から
飯野 幹夫 (国立音楽大学)
- 10:40～11:00 大学教育におけるロールレタリング導入の試み

- 11:00～11:20 自己表現・評価トレーニングにおける新たな役割（その3）
佐瀬 竜一（大阪国際大学）
鳥居 聖（桜美林学園）
- 11:20～11:40 橋本メソッドに導入による学生の主体的な学びの推進：
下位大学における取り組みと工夫
清水 亮（三重中京大学）
- 11:40～11:55 総合討論

自由研究Ⅵ 情報教育・ICT 利用

司 会：田中 每実（京都大学）・松下 佳代（京都大学）

会 場：1号館 202 教室

- 9:00～9:20 情報機器を扱うための背景を考慮した授業の実践について
宮腰 直幸（八戸工業大学）
- 9:20～9:40 チュートリアル教育での学生によるレジメの引用・参考文献の調査
仙石 昌也（愛知医科大学）
- 9:40～10:00 I T利用の哲学と方策
林 一夫（文部科学省高等教育局）
- 10:00～10:10 総合討論
- 10:10～10:20 休憩
- 10:20～10:40 循環的な作文過程モデルの内在化のためのマルチメディアソフト開発
ーライティングにおけるメタ認知の活性化を目指してー
高橋 薫（お茶の水女子大学）、佐々木 嘉則（お茶の水女子大学）
- 10:40～11:00 概念学習を重視した視聴覚的手法による英語指導
浅野 幸子（大阪体育大学）
- 11:00～11:20 授業客観化のためのクリッカー活用
青野 透（金沢大学）、末本 哲雄（金沢大学）、*山川達也（キーパッド・ジャパン）
- 11:20～11:40 動機づけを重視して双方向型 Web サイトを活用した授業改善の効果分析
西村 秀雄（金沢工業大学）
- 11:40～11:55 総合討論

自由研究Ⅶ 授業改善

司 会：川嶋 太津夫（神戸大学）・渡辺 達雄（金沢大学）

会 場：1号館 203 教室

- 9:00～9:20 ビデオ版授業改善チップス集の開発（1）
ー『あっとおどろく 大学教師NG集！』とは何か？ー
田実 潔（北星学園大学）、杉原 真晃（山形大学）、佐藤 龍子（静岡大学）
大島 武（東京工芸大学）、山形大学（佐藤 千恵、小田 隆治）
- 9:20～9:40 ビデオ版授業改善チップス集の開発（2）
ー『あっとおどろく 大学教師NG集！』は何かすごいのか？ー
杉原 真晃（山形大学）、田実 潔（北星学園大学）、佐藤 龍子（静岡大学）
大島 武（東京工芸大学）、山形大学（佐藤 千恵、小田 隆治）
- 9:40～10:00 e ティーチング・ポートフォリオ（FD Commons）による授業観察の試み
加藤 由香里（東京農工大学）
- 10:00～10:10 総合討論
- 10:10～10:20 休憩
- 10:20～10:40 金沢大学1年生の学習意欲と意味ある授業
末本 哲雄（金沢大学）、青野 透（金沢大学）

- 10:40～11:00 専門教育の授業改善—学部教員とセンター教員の協働から見えてきたもの—
森 朋子 (島根大学)、山田 剛史 (島根大学)、
島根大学 (橋本 哲)
- 11:00～11:20 (仮題) 授業デザインに関する教員の創意工夫は学生に伝わっているのか
～全学共通科目(総合教育科目B)講義を対象とする調査研究
渡邊 席子 (大阪市立大学)
- 11:20～11:40 「社会人のための学び直し講座」から学ぶ大学教育環境のあり方
佐藤 龍子 (静岡大学)、*市川 照久 (静岡大学)
- 11:40～11:55 総合討論

自由研究Ⅷ 日本語教育・初年次教育

司 会: 濱名 篤 (関西国際大学)・高野 篤子 (秋田大学)

会 場: 1号館 204 教室

- 9:00～9:20 文章表現に対する「苦手」の意味と症状: 大学初年次生の場合
渡辺 哲司 (九州大学)、島田 康行 (筑波大学)
- 9:20～9:40 大学講義の理解を目指した日本語授業の試み
福島 智子 (桜美林大学)、三宅 若菜 (桜美林大学)、今井 美登里 (桜美林大学)
- 9:40～10:00 中国人日本語教師の教師研修
飯島 有美子 (関西国際大学)
- 10:00～10:10 総合討論
- 10:10～10:20 休憩
- 10:20～10:40 教養教育としてのオムニバス講義導入の試み—ファッション政策を事例として—
中村 仁 (東京大学)
- 10:40～11:00 和歌山大学観光学部の初年次教育—教員が集团的・組織的に取り組む教育の創造—
小畑 力人 (和歌山大学)
- 11:00～11:20 意欲を高めるための初年次教育の試み
西川 真理子 (甲子園大学)
- 11:20～11:40 大学における自校教育授業の実施目的と内容・方法
—2008年度「大学における自校教育の実施状況調査」をふまえて—
大川 一毅 (岩手大学)
- 11:40～11:55 総合討論

自由研究Ⅸ 理系授業開発

司 会: 目 修三 (八戸工業大学)・秀島武敏 (桜美林大学)

会 場: 1号館 205 教室

- 9:00～9:20 受講を通して学生の達成するレベルと授業評価との相関の分析
西田 昌彦 (金沢工業大学)
- 9:20～9:40 東北大学の初年次教育科目“自然科学総合実験”における授業アンケート調査から
—学生による評価と授業改善の5年間の記録と特徴—
関根 勉 (東北大学)、猪股 歳之 (東北大学)
- 9:40～10:00 アメリカの研究大学における一般教育カリキュラムの設計方針
—自然科学系科目を中心に—
安田 淳一郎 (名古屋大学)
- 10:00～10:10 総合討論
- 10:10～10:20 休憩
- 10:20～10:40 物理リメディアルにおける教材開発と学生の反応
迫井 裕樹 (八戸工業大学)、安部 信行 (八戸工業大学)、目 修三 (八戸工業大学)、

*横地 弓夫 (八戸工業大学)、*宮崎 菜穂子 (八戸工業大学)

- 10:40~11:00 科学リテラシー教育としての実験教育の開発
西山 宣昭 (金沢大学)
- 11:00~11:20 文系学生に対する科学実験教育の試み・その3
—八戸工業大学感性デザイン学部におけるサイエンス基礎実験の取組み—
安部 信行 (八戸工業大学)、目 修三 (八戸工業大学)、
*関川 浩志 (八戸工業大学)、*夏坂 光男 (八戸工業大学)、
*宮崎 菜穂子 (八戸工業大学)、*坂本 禎智 (八戸工業大学)
- 11:20~11:40 科学アウトリーチと教職課程理科プログラム
四方 周輔 (東海大学)
- 11:40~11:55 総合討論

自由研究X 測定・評価

司会: 山内 正平 (千葉大学)・小林 勝法 (文教大学)

会場: 1号館 206 教室

- 9:00~9:20 学生の振り返りの共有化が学習にもたらすもの
—講義型授業科目における「学び合い」の試みから—
矢野 裕俊 (大阪市立大学)、廣瀬 真琴 (藍野大学)
- 9:20~9:40 日本語表現法科目の口頭発表における学生間の質問とコメント
大島 弥生 (東京海洋大学)
- 9:40~10:00 成績の絶対的相対評価を支援するスマートスコアについて
半田 智久 (お茶の水女子大学)
- 10:00~10:10 総合討論
- 10:10~10:20 休憩
- 10:20~10:40 インヴィジブル コミュニケーション スキル: きく力~重要性とその育成
穂田 照子 (桜美林大学)
- 10:40~11:00 身体活動量計を導入した薬学6年制保健教育の新しい展開
武田 直仁 (名城大学)、名城大学 (金子 美由紀、亀山 紘美、豊田 行康)
- 11:00~11:20 教養教育における日本語運用能力の定量的な評価方法
桐山 聰 (鳥取大学)
- 11:20~11:40 学習成果として測定可能なクリティカルシンキングの力とは何か
久保田 祐歌 (名古屋大学)
- 11:40~11:55 総合討論

自由研究XI 職員論・大学運営部会

司会: 本郷 優紀子 (桜美林大学)・佐々木 一也 (立教大学)

会場: 1号館 208 教室

- 9:00~9:20 大学職員の「職員先生」体感プログラム—初年次トレーニングの必要性の検証—
高橋 真義 (桜美林大学)
- 9:20~9:40 大学病院事務職員の姿について
池田 一郎 (筑波大学附属病院経営戦略室)
- 9:40~10:00 「大学職員意識調査アンケート2008」 (高等教育研究会・大学職員フォーラム企画)
に見る大学職員の意識の変遷 (概要)
村上 孝弘 (龍谷大学)
- 10:00~10:10 総合討論
- 10:10~10:20 休憩
- 10:20~10:40 日本私立看護系大学協会加盟の大学図書館トップページの現況II

- 10:40~11:00 私学経営改善に関する研究—その2—
加澤 恒雄 (広島工業大学)、
*冠地和生 (東京女子医科大学、国際統合医科学インスティテュート)
- 11:00~11:20 教育に競争的資金は有効か〜Post-grant Sustainability の検証法
松塚 ゆかり (一橋大学)
- 11:20~11:40 私立大学における IR の現状と可能性 —現状調査の結果から—
沖 清豪 (早稲田大学)、岡田 聡志 (早稲田大学)、江原 昭博 (早稲田大学)
- 11:40~11:55 総合討論

自由研究Ⅱ TA・学生参画

司会: 林 義樹 (日本教育大学院大学)・吉永 契一郎 (東京農工大学)

会場: 1号館 209教室

- 9:00~9:20 FD を楽しむという発想 —フィールドワークを通じた教育改善と院生 TA の活用—
小林 祐也 (京都大学)
- 9:20~9:40 教育プログラムとしてのティーチング・アシスタント業務に関する考察
—愛媛大学「TAの実態に関するアンケート」調査より—
山内 一祥 (愛媛大学)
- 9:40~10:00 大規模私立大学における組織的な教員支援の取り組み
岩崎 千晶 (関西大学大学院)、三浦 真琴、*遠海 友紀、*水越 敏行
- 10:00~10:10 総合討論
- 10:10~10:20 休憩
- 10:20~10:40 <学生の手による遠隔・授業研究>による ICT 教育のとりくみ
—学生主体の<授業研修>による実践研究—
小島 勇 (東京電機大学)、*本多 弘幸 (東京電機大学)
- 10:40~11:00 学生からの授業提案の評価と新規授業のデザイン
尾澤 重知 (大分大学)、大分大学 (市原 宏一、西村 善博)
- 11:00~11:20 初年次教育における学習ガイドブック作成とFD—福島大学の取組を中心に—
板橋 孝幸 (福島大学)
- 11:20~11:40 学生によるFD活動の意義と可能性
木野 茂 (立命館大学)
- 11:40~11:55 総合討論

昼食 12:00~13:10 (シンポジウムⅡ打ち合わせ)

シンポジウムⅡ 13:30~16:00 「大学教員の養成・研修〜Discipline との相克・相生」

会場: 講堂

趣旨: 初・中等教育の教職課程における専門教育科目は、教える教科に関する「教科専門科目」と、各教科に共通した教育のための知識・能力に関する「教職専門科目」からなる。大学教員の養成・研修を考える場合においても、その寄って立つところの Discipline と、大学教員にとっての共通の素養、いわゆる「教職専門」の2つの要素を見出すことができる。ここでは、両者の関係を相剋・相生ととらえ、「教育者としての大学教員」の養成・研修について論議したい。

シンポジスト: 大塚 雄作(京都大学)、小田 隆治(山形大学)、加藤 かおり(新潟大学)

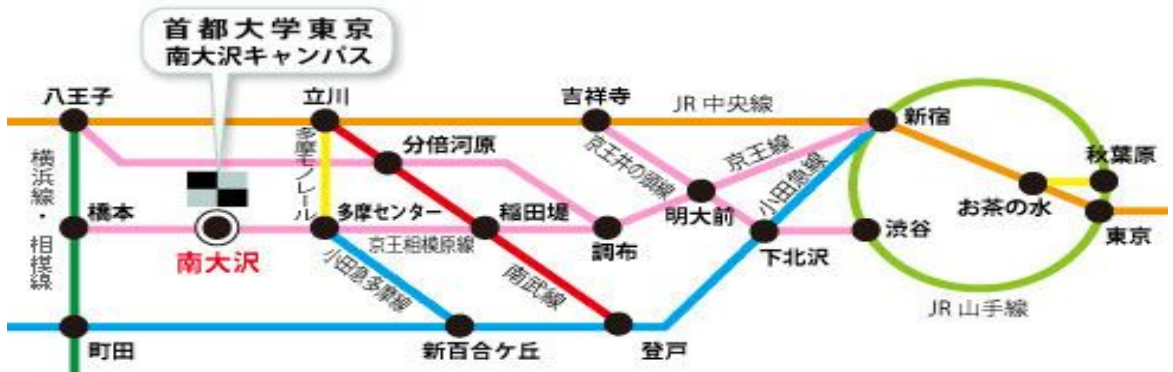
コーディネーター: 奈良 雅之(目白大学・本大会企画委員)

会長閉会挨拶・次期会場挨拶 16:00~16:30

◆プログラム中の「*」印は、非会員です (2009/4/24 現在)。◆

〈 大会参加要領 〉

1. 会場: 首都大学東京南大沢キャンパスまでの交通案内



・新宿から京王線利用約 40 分、横浜から JR 横浜線利用「橋本」にて京王相模原線に乗り換え約 50 分

2. 大会参加申し込み

大会に参加される方は、同封の振替用紙に必要事項をご記入の上、**5月8日(金)**までにご入金ください（入金の確認をもって申し込み受付とします）。締め切り以降の申し込みは、大会当日、会場校にてお願いします。非会員の方も参加できますので、郵便局備え付けの青字の「払込取扱票」をご利用になり、「通信欄」に必要事項をご記入の上、お申し込みください。

必要事項

①所属、②e メールアドレス、③申し込み項目（参加費等）、④ご住所、

⑤お名前（*団体会員の場合にも必ず来場する**個人名**をご記入ください）、⑥電話番号

申し込み項目（参加費等）

*大会参加費（発表要旨集録を含む）	一般	4,000 円（当日受付 5,000 円）
	学生	3,000 円（当日受付 5,000 円）
*懇親会費		5,000 円

*『発表要旨集』のみ（送料込み） 2,000 円

振替口座

口座名：大学教育学会第31回大会実行委員会

口座番号：00110-8-281500

- ・お支払いいただいた大会参加費等は、理由を問わず返却いたしません。予めご了承ください。大会参加費等を払込みながらご欠席の場合は、後日、発表要旨集録をお送りいたします。
- ・領収書が必要な方には大会当日お渡し致します。受付にてお申し付けください。

3. 大会実行委員会からのお願い

- ・発表資料等は、各自でご用意ください。発表時間（質疑応答含む）は 20 分です。
- ・各会場にプロジェクタ（windows XP 対応）は準備いたしますが、PC は各自でご用意ください。
- ・会場には、駐車スペースはありません。公共の交通機関をご利用ください。
- ・本大会ではお弁当の用意は致しません。6 日（土）と 7 日（日）の両日とも生協食堂が営業しておりますのでご利用ください（駅周辺の飲食店はアウトレットモールの客で混雑します）。

＝事務局から＝

● 会費納入のお願い

今年度(2009年度)の会費の請求書、郵便払込取扱票を同封させていただきました。また、過年度の会費、会誌代が未納の方々にはその分も加算した請求書とさせていただきますので、あわせて**5月29日(金)**までにご入金ください。領収証につきましては、郵便払込票の受領証をもって替えさせていただきます。なお、入金状況についてご不明な方は、メールもしくはFAXにて4桁の会員番号を明記の上、お問い合わせください。追って、返答させていただきます。

【振込先】 払込取扱票 → 00120-4-178891 「大学教育学会」

※ご入金はなるべく同封の払込取扱票をご利用ください。

◆他の金融機関からの振込◆

店名「019店(ゼロイチキュー店)」、預金種目「当座」、

口座番号「0178891」、受取人名「大学教育学会」

● 役員選挙について

この度、選挙権を有する方には役員選挙のための被選挙者名簿等を同封させていただいておりますので、投票要領をご参照の上、お早めにご投票くださいますようお願いいたします。

なお、投票の締切りは、2009年5月8日(金) (消印有効)です。

● 学会事務局の移転について

2009年6月8日(月)より、事務局が桜美林大学PFCキャンパス内(神奈川県相模原市)に移ることとなりました。ご承知おきますようお願いいたします。

● 住所等変更の届出について(お願い)

4月になり、所属変更およびそれともなう転居をされる方も多いと思います。何かとお忙しいと思いますが、事務局への登録内容変更の届出につきましても速やかにお願いをいたします。

また、学生会員で入会された方は、就職後、その旨ご連絡くださいますようお願いいたします。学生会員から個人会員へと登録内容を更新させていただきます。

● 2009年度課題研究集会について

2009年度課題研究集会は、11月28日(土)～29日(日)大阪市立大学杉本キャンパス(所在地:大阪市住吉区杉本3-3-138)にて開催予定です。

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757 北海道医療大学内
大学教育学会事務局 事務局長 小野 滋男
TEL&FAX 0133-23-1487
e-mail ungakkai@hoku-iryo-u.ac.jp
http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/